

あんげろす

SPES (希望)

この夏は念願のスペインへの旅がかなえられ、多くの世界遺産に接することができた。なかでも、スペイン・カトリックの総本山トレドのカテドラル（大聖堂）は完成までに 266 年を要したというが、その壮大荘厳、またあふれるばかりの宗教芸術の豪華絢爛さには圧倒され、まるで神の国にいるかのような錯覚すら覚えた。またバルセロナの空高くそびえるガウディのライフワークとされたサグラダ・ファミリア（聖家族）聖堂は、1882 年に着工され全体の完成まであと 100 年は要するといわれているが、その一部「生誕の門」の前に立つ時、生きた聖書の世界が天空いっぱいになり、魂のそこからおそれとおののきを覚え、ぼう然と立ちすくんでしまった。

マルセルは希望には日常生活次元のものと神の愛にもとづく未来への確信へ向けての根源的希望の二つがあるというが、上記の聖堂は根源的希望にもとづいた祈りの成果と思えるのである。同じ神のみ名によって建てられた明治学院の行く末も、日先の日常的次元のそれではなく、根源的希望に確信をおき、日々の勤めをしっかりと果たしていきたいものと思うのである。

千葉 茂美

第 26 号

2001. 10

